

技術系区分採用者の活躍

関税局での勤務

システム

システムで税関行政を支える



永野 諭

東京税関総務部
総括システム企画調整官付調査官(横浜税関採用)
平成22年Ⅱ種 電気・電子・情報

私が所属している総括システム企画調整官は、税関における情報システムの企画・開発、保守・運用といった業務を行っています。

税関における情報システムは、日本の輸出入に関する様々な税関手続きを処理しており、迅速な輸出入通関及び社会悪物品の取締りといった税関業務は、今やシステムの使用を前提としたものとなっています。

日本全国の税関職員が情報システムを利用できるようにネットワー

クを整備しているのですが、私はその運用業務と企画業務に携わっており、運用業務では、利用手順や規則の考案、セキュリティ・障害対応、保守管理、税関職員からの要望や問合せ対応を行っています。

企画業務では、政府IT政策を踏まえて将来必要となる要件の検討、関係者との調整を経て次期税関ネットワークの仕様の策定、調達・設計構築を行っています。

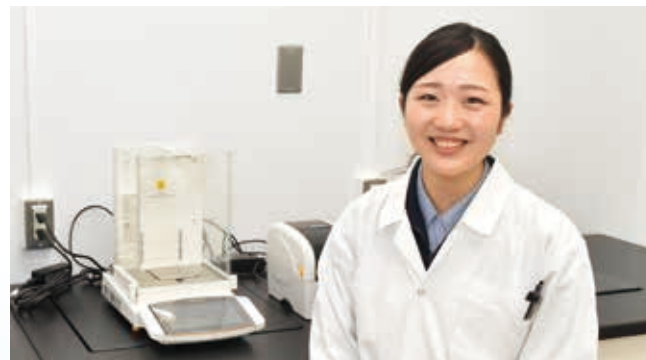
情報システムの運用と企画は、安定稼働を前提とし、行政需要に応え、利用者の声を取り入れ、それらを限られた予算の中で実現することが求められます。また、業務実態の把握や先端技術の動向に目を光らせて取り組む必要があります。一筋縄ではいかないものの、その分やり遂げた際の達成感は爽快で、非常にやりがいのある仕事です。高度なITスキルが必要なのかと尻込みしてしまうかもしれませんが、税関では周りの職員のサポートや研修環境が充実していて、安心して業務に取り組むことができます。

税関には港の取締りや通関、総務等様々な業務がありますが、その中でも税関行政をシステムで支えて安全・安心な社会の実現に貢献していくことは、他ではなかなか経験できない仕事です。パンフレットをご覧の皆さんと一緒に仕事できることを期待しています。



分析

税関は理系人材に広く門戸を開いています！



鷹羽 美佳

名古屋税関業務部特別分析官付
平成30年一般職(大卒程度)農学

私は、令和2年に関税中央分析所で分析業務の基礎を1年間学び、令和3年から名古屋税関の分析部門で勤務しています。主な業務は、分析による輸入品の確認です。食品、繊維、無機物、高分子化合物、木材等、様々な物が日々、大量に輸入されています。輸入品には税金が課せられ、税率は品目ごとに異なります。この税率は、成分や組成により変わるものもあります。そのため、正しい税率が適用されているかを、それぞれ

に適した分析手法を用いて確認する必要があります。また、不正薬物の分析も重要な業務です。入国旅客の手荷物検査や通関検査で発見された怪しいものが、輸入が禁止されている不正薬物であるか見ただけでは判別できません。分析を行うことで、初めてそれが何であるかを判別することができます。このように税関の使命である「適正かつ公平な関税等の徴収」や「安全・安心な社会の実現」のため分析部門は重要な役割を果たしています。

私は、学生時代に化学を専攻していました。共に働く分析職員は一口に理系といっても、化学系、物理系、生物系、情報系、工学系など様々です。税関の分析部門の大きな特徴は、分析の分野が幅広いため、理系職員がそれぞれの知識を活かしながら働いているということです。分からないことは皆で協力しながら柔軟に対応しています。すべてを網羅して分析業務にあたっている職員はいません。必要とされる専門分野は多岐にわたるため、必ず自分の知識を活かすことができると思います。日々の業務は勉強の連続で大変なことも多いですが、何より楽しいです。興味ある方はぜひ税関分析部門を希望してみたいかがでしょうか。いつか皆さんと働ける日が来ることを楽しみにしています。



第二参事官室

日本と海外の架け橋に



峯松 延行

関税局関税課参事官室(国際協力担当)技術協力係長
(門司税関採用)
平成22年Ⅱ種 行政

関税局・税関では、途上国税関に対する技術支援を行っており、税関分野の技術支援を通じて、途上国税関の税関手続きの簡素化、国際貿易の円滑化等を目指しています。グローバル化が進む中で、新たなビジネスチャンスを求め開発途上国に進出している日系企業も多くあります。このような在外日系企業が抱える問題の一つとして、例えば自動車部品の検査に時間を要して荷物の引取りが遅れるといった貿易上の課

題が、現地で経済活動を営む上での障害となっています。技術協力はこれらの課題を解決するための一つの政策であり、今や日本経済の発展のために必要不可欠なものとなっています。

私が担当する業務は、技術協力の中でもWCO(世界税関機構)への日本からの拠出金を活用して実施している支援です。具体的には途上国税関職員を日本の大学で受け入れる人材育成プログラムや途上国税関の知識向上を目的としたワークショップの開催等が挙げられます。海外との調整は日本の常識が通用せず骨が折れることも多いですが、参加者から、「大変有意義だった。日本が好きになった。」等の声を聞くと、日ごろの苦労が報われ、やりがいを感じます。その他、WCO関連会議も担当しており、国際会議へ参加する機会も多くあります。

関税局・税関以外でも、国際局では、G7で設立されたFATF(金融活動作業部会)を担当していました。資金洗浄やテロ資金供与対策を実施している枠組みであり、年3回開催される国際会議への出席で、パリ、ローマ等に出張できたことは大変良い経験でした。

このように、国際業務の観点からも多くのことを経験できる職場であり、海外出張に行きたい、海外に赴任してみたいという方がいれば、非常に刺激的な職場だと感じています。皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。



業務課

国際貿易の「今」を可視化する



道脇 萌

関税局業務課品目分類第二係(横浜税関採用)
平成28年一般職(大卒程度)行政

「HSコード」という言葉を聞いたことはありますか。これはWCO(世界税関機構)が管理する国際条約に基づき定められた商品分類のための品目表(HS品目表)を構成する数字6桁のことです。世界で共通のため、関税の適用や国際貿易統計の把握等、様々な目的に使用されています。

当係は、WCOにおける国際会議に出席し、概ね5年ごとに行われるHS

品目表の改正に係る業務を行っています。現行のHS(HS2022)の発効に際しては、昆虫食やドローン等、時代の変化などに合わせた品目を分類するHSコードの新設に携わりました。HS2022は2022年1月に発効したばかりですが、既に次の改正(HS2027)に向けた作業は始まっており、分類の明確化に資する提案などを行い、議論の活発化に貢献しています。世界中の品目分類の担当者が一堂に会し、新商品・新技術等について様々な角度から意見を交わすため、身をもって品目分類の奥深さを感じることができます。

日本では、税関への申告にあたって9桁の数字(統計品目番号)を使用しています。これは、HSコードに3桁の数字(統計細分)を付加したものであり、当係ではその新設・削除の検討も行っています。2021年1月には、物資所管省庁の要望を受け、マスクや使い捨て手袋等、新型コロナウイルス感染症対策に関連する物品等を分類する統計細分を新設し、それらのより詳細な貿易統計の把握に寄与しました。新設する統計細分の範囲や定義について関係省庁と調整したり、適正な運用を確保するための資料を作成したりと大変な作業でしたが、無事新しい統計細分が施行された時には大きな達成感を得ることができました。

皆様も、日本に・世界に役立つ仕組みづくりに関わってみませんか。一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。

